

社名:

I 記載内容(コンテンツ)評価		評価項目	評価内容詳細: 記載されるべき事柄と評価ポイント	記載の有無	加點欄	スコア	特記事項 (付加点を付けた場合はその理由。但し各評価項目+1、1社合計+3以内)
1. 組織概要とBM							
1-1. 価値創造 ビジネスモデル	事業概要		①事業の概要(事業セグメント、主な製品・サービス等)がわかりやすく説明されているか				
	ビジネスモデル (BM) の特徴/優位性		②ビジネスモデル(組織の短中長期にわたり事業活動を通じてインプット類をアウトプット類及び「期待成果(outcome)」に変換するシステム)を理解できたか ③バリューチェーンの特長、差別的要素、BMの強みと持続可能性が捉えられるか				
	資本類別 (財務/非財務資本)		④価値創造に不可欠な諸資本(含むステークホルダー)、経営資源(重要な無形資産など)が捉えられるか ⑤事業遂行上重要なインタンジブルズ(P(知的財産等)、組織知、人的資本、関係資本等)のインプットが具体的に捉えられるか				
1-2. 事業環境/競合状況	外部環境		①企業の経営情勢と事業を左右する外部環境要因に関する説明/分析があるか				
	市場環境とポジショニング		②各事業の市場規模/自社のシェア(ポジショニングなど)が捉えられるか ③競合に関する説明と競合他社との比較、自社の競争優位性は捉えられるか				
	将来展望情報		④結果として将来の事業環境を見通す分析ができるか				
1-3. 歴史、価値観	会社の歴史・沿革		①創業以来の歴史/沿革、トピックス等から企業の成長・変化が理解できたか ②過去の事業/経営におけるトピックス(不祥事等を含む)を参照できるか				
	理念・価値観		③企業理念(創業精神の今日における意義やパーパス)、ビジョン、ミッション等が捉えられるか				
			④企業理念を踏まえて、行動規範(社是・倫理規範・行動原則等)が示されており、社員への浸透性を感じたか				
2. 戦略/見通し							
2-1. 経営戦略			「戦略」については、事業の持続可能性についても評価すべく社会から要請される目標や世界標準に基づく環境課題への対応が適切になされているか、また知的資本等見えない資本にも留意する。				
2-1-1. 現在の戦略	事業戦略説明		①全社レベルの戦略に関する説明(背景/環境認識/目標/施策を含む)				
	経営資源の配分		②各事業セグメントの戦略に財務/非財務(知的資産等)の目標と具体的な施策の落とし込みがされているか ③戦略遂行に必要な経営資源(特に知的資産、関係資産、人的資産)とそれらへの投資についての記載				
	課題の抽出と対応		④自社の特性に合わせた経営課題が特定され、課題解決への施策・目標等が示されているか ⑤各事業遂行における課題への対処が示され、それらが「実効性あるもの」と感じられるか				
2-1-2. 過去の戦略と評価	過去の中計等のレビュー		①過去の戦略(中計等)の遂行結果の記述(結果分析、課題・改善策等) ②過去の事業成果(4-1)、重要な経営指標(KPI)との関連性をもった記述/評価				
2-1-3. 将来の目標/方向性	中長期目標と戦略・テーマ		①今後3~5年(中期)、10年~(長期)の目標・計画の明示(財務中心でも可) ②具体的な戦略、取り組みテーマ(事業領域、投資、M&A等)が示されているか				
	経営資源の適確な配分		③競争優位を支える経営資源(R&D、知財、人材など)に対する投資・強化策が捉えられるか				
	社会的課題への対応		④サステナビリティ関連の目標(マテリアリティ等)が示され、具体的な目標/KPIなどが設定されているか。 ⑤社会課題解決のために設定された目標が各事業の活動に落とし込まれ、実行力を感じるか				
2-2. リスクとその対応	重要なリスクと機会		①事業遂行上考えられる重要なリスクが理解でき、機会との関係を含めて解りやすく表現されていたか				
	リスクの可能性と対応		②リスク発生の可能性やSHへの影響、その対処・管理方法についての具体的に記述されているか				
	ES関連リスクの特定		③TCFDなど気候変動に代表される環境、及び人権等社会に係るリスクとその影響、及びそれらへの対応				
2-3. Key ProcessとKPI	ビジネス成功・維持の鍵		①事業の維持拡大のために鍵となる重要なリソース(資源)とプロセス(遂行手順)、またビジネス・サイクル(事業の収益維持可能期間、または収益喪失可能性年限)が明示/説明されているか				
	KPIの特定		②企業価値拡大につながるロジック(施策等の関連性)と主要経営指標(KPI)が合理的に特定されているか ③人的資本・知的資本等非財務面のKPIが特定され、それらが価値創造に結びつけて説明されているか				
3. サステナビリティ関連情報							
3-1. 環境対応	ESに関して以下の点の評価		①事業が地球環境(資源、生物多様性等)に対して及ぼす影響(マイナス面等)とその対処について記述 ②企業が環境(気候変動対応等)に対して配慮している諸事項と目標(KPI等)				
	3-2. 社会的責任	・ 自社のBM/価値創造との関係でのマテリアリティ(重要課題)の特定 ・ 中計と各事業戦略の中でのES対応	①事業が社会(地域、人権等)に対して及ぼす影響(マイナス面を含む)とその方針 ②顧客、取引先(サプライチェーンを含む)に対して配慮している諸事項と目標(KPI等) ③自社の従業員等に対して配慮している諸事項(報酬、健康・安全、多様性、能力開発など)と目標(KPI等) ④人権尊重に関するデュエティジエンス、課題、方針などの記載 ⑤人的資本強化に関する方針、目標、実績等の開示(エンゲージメント調査結果、給与水準、人事制度、等)				
3-3. 企業統治	・ 形式的記載ではなく、自社のガバナンスに関する課題に真摯に対応しているか ・ トップに対して十分な監視と支援が図られていると感じるか ・ 透明性のある開示(例えば監査役会で抽出された問題や課題への対処)が見られたか		①自社の株主構成(子会社、オーナー企業等)に応じた企業統治の基本姿勢(少数株主への配慮等)が確認され、経営監視上導入している工夫(機関設計、任意の委員会等)の評価 ②取締役への要求スキルと保有スキルの妥当性、特に社外取締役の能力・経験等のバランス、多様性に十分配慮しているか ③役員報酬決定の手続と算定方法の妥当性および役員報酬開示(具体的計算法、個別開示等)の透明性 ④取締役会の実効性に関する情報開示の工夫(評価結果と課題の抽出)と議案の詳細に関する情報 ⑤CEO選任プロセス、サクセッションプラン、役員トレーニング、政策株対応、総会の決議結果、株主エンゲージメント、買収防衛策など、重要なガバナンス上の課題の開示が適切になされていると感じたか				
4. パフォーマンスと財務							
4-1. 過去の実績	長期の実績データ (財務・非財務)		①過去(長期)の財務/非財務のデータが十分に且つわかりやすく説明されているか				
	重要な経営・財務指標と実績評価		②財務指標(ROE, ROA, EPS等)を含む重要な経営指標が示され、実績に関して評価されているか ③事業成果と戦略との整合性に関する記述等、経営実績の評価に関する説明				
	「期待成果 (outcome)」の特定		④諸資本提供者(又はステークホルダー)の「期待」と「成果(outcome)」が具体的に記載され、目指す価値創造との関係が理解できるか				
	非財務(知的資産等),ESGデータの工夫		⑤ESG関連の重要なデータの推移と実績についての評価が示されているか ⑥自社の特性に合った重要な非財務関連データを示して開示の工夫がされているか				
4-2. 過去の資本/財務政策	資本調達 株主還元		①過去(5~10年)の資本政策(増資、株式分割・併合等)に関するデータ ②配当/自己株取得の実績データと合理性のある株主還元方針の記載				
4-3. 株主パフォーマンス実績/評価	TSR (総株主リターン) 実績データ		①過去(上場以来、増資以降、5年、10年など)の配当込みの株主リターン(TSR)の実績				
	相対実績評価/リスク評価		②相対比較(対市場、対業種、対競合会社)及びリスク(a)関連の情報 ③経営者としてのTSR実績の評価(想定資本コストとの比較があればベスト)				
4-4. 現在の財務状況と将来の資本財務戦略 (4)	現在の財務状況		①現在の財務状況に関する分析/評価、格付けとの関係についての記述があるか				
	財務目標とキャッシュフローターゲット資本コストの明示		②経営上目標とする財務成果(TSR, ROIC, EPS等)と将来のCFの使い道が合理的か ③自社の想定資本コスト(WACC, 株主資本コスト)と目標とする負債資本構成(D/Eレシオ)の明示				
	株主還元策の合理性		④それらの目標を達成するために取り組む財務戦略・施策に関する説明。特に株主還元政策(配当,自己株取得)の中身が合理的で、無駄なキャッシュの保有が回避されているか				
II 統合的開示の評価							
5. 戦略的焦点と将来志向		価値創造に結びつく戦略ストーリー	①会社の戦略が将来の価値創造へと結びつく内容で、理解しやすい「ストーリー」で語られているか				
		諸資本/経営資源の戦略的活用	②統合的思考により(「サイロ問題」の克服を意識して)「諸資本」をいかに有機的に活用するか、また事業を介しての諸資本(又はステークホルダー)への影響や相互間の関係(含むコンフリクト、トレードオフ)をどうするか				
6. コネクティビティ(情報の相互連関)	経営理念/長期目標とBM/価値創造との関係		①会社が目指す方向・目標が、BMや価値創造(事業を通じた課題解決や経済的価値と社会的価値双方を含む)と整合的に結び付けられているか				
	過去・現在・将来の連続性		②1期間に留まらず、過去の一定期間の組織活動の結果と分析が記載されており、将来の戦略展開の成否の予想分析が行えるようになっているか				
	財務情報と非財務情報の結びつき		③重要な経営数値が財務データ相互、非財務情報相互及び両者間の連関性を持って示されているか ④「ロジックツリー」等を使った、価値創造に結びつく戦略や財務・非財務情報(含むKPI)との関係性の開示				
	サステナビリティと経営戦略/事業の関連性		⑤経営理念等において、サステナビリティ経営を推進する姿勢が読み取れるか ⑥ESG課題やマテリアリティが事業活動と結び付けられ、統一的な経営情報として説明されているか ⑦ESG、CSR課題に対する目標(KPIを含む)と実績の評価、PDCA等による管理がなされているか				
7. マテリアリティ (重要性)	重要なステークホルダーの特定とそれらの関心に即した情報		①自社の経営に影響を与える主たるステークホルダーの期待と関心事項が示され、それに関する成果(アウトカム)や将来の目標値に関するデータや説明があり、双方での対話が行えるように工夫されているか				
	経営戦略へ結びつく課題や目標の開示		②従来のCSRのマテリアリティに留まらず、経営戦略や事業戦略と繋がる重要課題と目標の開示があるか				
8. 簡潔性/読みやすさ/ビジュアル			記載されている情報・データの表現が簡潔明瞭となるように、文章および写真・グラフ・チャート・イラストなどデザインが優れ読みやすくまとめられているか				
III 開示の説得力							
9. 透明性			会社の経営実態、また事業活動上の課題などについて把握でき、経営陣にとって都合の悪い情報についても正直に開示がなされており、透明性を感じたか				
10. リーダーシップ			①会社のトップのメッセージから強いリーダーシップと経営推進力が感じ取れたか ②CFOなど重要な経営者のメッセージから戦略の合理性、納得性を感じたか				
11. 信頼性			(経営幹部等による)記載内容に関する真正性(誠実性)及び作成責任に関する表明があり、また(第三者保証など)非財務情報の信頼性が担保されているか				
12. 長期間とのインセンティブ			当該企業に対して、財務資本をはじめとした諸資本を将来にわたり提供することを通じ、長期的に関与しようとする思いが高められたか				
合計						0.0	